

湘南日独協会 会報
Der Wind
(風)

湘南日独協会会報(Der Wind)
VOL. 14. NO. 6. 通巻85. 発行 2012. 11. 11

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

設立15周年記念ドイツ旅行

9月号でご案内しましたドイツ旅行の主要日程が決まりました。費用については現在詰めに入っておりますので近くお知らせ出来ると思います。皆さんの来年の予定表に是非書き加えて頂きたいと思っております。

- 5月21日(火) 羽田空港国際線ロビー集合(夜)
22日(水) 午前1時過ぎ出発
同日早朝フランクフルト着。「ヴァルトブルグ城」等見学後、ワイマールへ。ワイマール独日協会と当協会の15周年祝賀会(泊)
23日(木) ワイマール市内観光後ドレスデンへ。希望者はオペラ「シンデレラ」(泊)
24日(金) 市内、「ザクセンスイス国立公園」、エルベ河を船遊覧(泊)
25日(土) 「マイセン磁器工場見学」「シュプレーヴァル」で船上でコトブス独日協会と昼食会後ベルリンへ。希望者はベルリンフィル演奏会「ベートーベン交響曲第4番」(泊)
26日(日) 市内、ポツダム、建築家ブルーノ・タウト関連見学。ベルリン独日協会交流夕食会(泊)
27日(月) 珍しい運河での船舶エレベーター見学、ドイツ最大の島リュウゲン島(ザスニッツ) (泊)
28日(火) 「白い岸壁」を見、人気の「モリー鉄道乗車」でキュールンクスボルンへ(泊)
29日(水) リューベックのトーマス・マン等市内観光後ハンブルグ観光。ハンブルグ独日協会と交流夕食会(泊)
30日(木) ハンブルグからフランクフルト経由帰国
31日(金) 午前羽田着

なお、ドイツ国内移動は短時間の観光船、列車以外は専用車を利用する予定です。

湘南日独協会の活動予定

■藤沢国際フェスティバル2012

11月11日(日) 10:00~15:00

会場 藤沢駅北口サンパール広場

湘南日独協会のブースを設置日頃の活動をPRします

■Singen wir zusammen! 第3回

日時 11月18日(日) 15:00~16:30

会場 江ノ電第2ビル4F 湘南アカデミア

今回はクリスマスの歌を予定しています

会費 1,000円

申込、問合せ:

木原 Tel:0466-28-9150 E-mail:jdgs@jcom.home.ne.jp

■第83回例会 講演会

「グリムこぼれ話」

講師 橋本孝氏

(日本グリム協会会長・栃木日独協会会長)

今年はグリム童話の初版から200年の記念の年に当たり世界中で記念行事が開催されています。グリムに関しての第一人者である橋本氏をお招きして、グリム兄弟と19世紀、グリム兄弟と日本等、普段あまり聞くことの出来ない講演です

日時 11月25日(日) 14:00~15:45

会場 江ノ電第2ビル7F 湘南アカデミア

会費 1,000円

懇親会 講演終了後別会場、別会費

出席ご希望の方は急ぎお申込み下さい

■望年会

日時 12月15日(土) 18:00~20:30

会場 KKR 江の島ニュー向洋(中2階大会議室)

小田急片瀬江ノ島駅 江ノ電江ノ島駅

湘南モノレール湘南江ノ島駅

下車徒歩5~10分

電話0466-23-7710

会費5千円

■第84回例会並びに定時総会開催

日時 1月27日(日) 13:00~

詳細は次号1月13日発行予定でお知らせ致します

新入会員紹介 (敬称略)
海老根 靖典 片野 俊雄

「ベルリンから湘南への架け橋」



会員 寺田雄介

(寺田雄介氏) ベルリンから湘南へ帰ってくるというのは、湘南から都内へ引越すのとはやはり訳が違う。2年間でベルリンのアパートの部屋に溜まった大量の書籍や雑貨、それらのうちどれを持ち帰り、どれを捨てていくのかを吟味しながらダンボールに詰めるのだが、一つひとつを手にするたびにそこに詰まった記憶が蘇る。住民票からは、ベルリンに越してきて初めてドイツ語を話したときのこと。なんと、僕が最初にドイツ語で会話した相手は、市役所の外国人課担当のおばさんであった。何かと不評の多いドイツの役所だが、幸運なことに僕は手続きに関して嫌な思いをしたことは一度もなかった。そう、日本から来たの。ベルリンには何年住むの？引越して問題はなかった？これがウェルカムマナーの用紙だから、大学で提出しなさいね、などと、まるでホームステイ先のおばさんのように優しく接してもらい、ベルリンに入居する外国人がもらえるという100ユーロをしっかりといただいたものである。しかし、そんな思い出の断片を一つひとつ拾い上げながら作業をしているのは、いつまでたっても部屋が片付かない。ベルリンを立つ前日ともなると、心を鬼にして感傷に浸りながら気持ちを押さえつけ、できるだけ無機質にそして機械的に、パッキングの作業を進めた。そうしてようやく本棚や洋服ダンスの中身はダンボールの中へと吸い込まれ、部屋の様相は2年前にベルリンへとやってきた当時の姿に戻っていく。

ダンボールを郵便局で発送し、部屋の鍵を大家さんに返してから、2年間通ったフンボルト大学へと足を運ぶ。ベルリンで親身に僕の指導をしてくださったヨーゼフ・フォーク教授に最後のご挨拶をし、研究の成果をまとめた書類を渡す。数年前に日本でフォーク先生の論文を読み、是非彼の元で研究したいと願ったのだが、このシンプルで、しかしそれゆえに簡単ではない希望を実現するために、長きにわたって多くの人に支えられたことを僕は一生忘れないだろう。日独の指導教授や先輩研究者、DAAD、現地で出会った数多くの友人たち、ベルリンの日独協会、そしてもちろん湘南日独協会の皆様。気づけばベルリンは僕にとって第二の故郷となっていた。124年前にきっと森鷗外も感じたであろう後ろ髪を引かれる思いで、テゲル空港へと向かった。

帰国する直前のゼメスター休みには、アムステルダム、ルクセンブルク、ウィーンと欧州各都市を旅行し、ドイツ国内では、5年に1度の祭典であるドクメンタを見学するためにカッセルへも足を伸ばした。もちろんベルリンでも、数えきれないほど多くのイベントが行われていたことは言うまでもない。残念ながらそれらに言及できるだけの紙面は与えられていないので、これらの美しい思い出はまた別の機会に…とさせていただければ幸いである。

そうして帰国して間もなく湘南オクトーバーフェストが開かれた。9月23日、小雨の降る中にもかかわらず、湘南グランドホテルには総勢120名以上の参加者が集まった。藤沢、鎌倉両市長および、ドイツ大使館のアウアー文化部長も時間を割いてお越しくださった。会員の鬼久保様たちのアルペンホルン、合

唱団アムゼル、エーデルワイス・トリオ…迫力ある数々の演出に我々の耳はすっかり虜となり、「各ゲストのご挨拶や主催者側の軽妙なトークに会場はどっと沸く。そして頃合いよくサーブされてくるフルコース料理に、今度は「舌」が大忙し。オクトーバーフェストというと、ドイツビールをいかにして味わうかが焦点になりがちだが、湘南の場合は食事にも細かく気を遣われているところが心憎い。そして東京日独協会からいらしたタベア、ラウラ両氏が可愛らしい日本語で司会をすると、男性諸君の「目」は二人に釘付けとなり、ほろ酔い気分も手伝って、もはやノック・アウトである。僕は宴会の終盤になってアウアー文化部長を藤沢駅までお送りしたのだが、その際アウアー氏は終始ご機嫌で、湘南で行われたこのイベントを心より楽しまれたご様子であったことをここに書き添えておく。それにしても、ベルリンに2年も滞在していたにもかかわらず、当地のオクトーバーフェストに足を運んだことは一度としてなかった。もちろんそれはベルリンという街が、ミュンヘンのような保守性を有していないことが関係しているわけだが、いずれにしても帰国したばかりの日本でドイツでは耳にすることのなかった“Ein Prosit”等のドイツ語の歌を皆様と歌えたのは、非常に愉快なことだった。このような大きなイベントを企画・運営するために、たいへんな準備が必要であったことは容易に想像がつく。何ヶ月にもわたって携わってこられた湘南日独協会の理事の皆様、また当日のステージで遺憾無くパフォーマンスを発揮されたアムゼル合唱団並びに出演者の皆様に、そして会場に足を運んでくださった参加者の皆様に、ありがとうございます、と心よりの感謝の気持ちを申し上げたい。



総合司会のタベアさん、ラウラさんと峯松さん



(演奏するエーデルワイス・トリオ)

来賓の方々のご挨拶



(鎌倉 松尾市長)



(藤沢 鈴木市長)



(クラウス・アウアー 駐日ドイツ大使館
公使 広報文化担当)



(楽しくダンス)



(アムゼルの演奏)

かまくら国際フェスティバル参加

10月28日(日)恒例の「かまくら国際フェスティバルが開催され、湘南日独協会は今年もソーセージの販売とドイツの紹介、当協会の活動を広報しました。

また、例年大好評を得ている、当協会会員鬼久保洋治氏率いる楽団「ダンケシェーン」がアルプホルン、カウベル、エルガー(アコーディオン)等多彩な楽器で演奏しフェスティバルを盛り上げました。

当日は織田会長はじめ理事が準備段階から係わりましたが、会員の三宅さん、池田さんをはじめ多くの皆様のお手伝いを頂きました。ここに心から感謝申し上げます。



(鎌倉大仏を背景に演奏する楽団ダンケシェーン)



(ソーセージ販売、峰島さん、池田さん、三宅さん)

ドイツ語講座ご案内 (10月より開講中)

クラス:

[初級] 土曜日 11:15~12:45 受付中

講師: 小笠原藤子、Dagmar Kunst

[中級・講読] 土曜日 10:00~11:30 受付中

講師: 松野義明

[中級・会話] 土曜日 9:30~11:00

定員に達した為受付は終了しました

会場: 藤沢カトリック教会

受講料: 43,000円 (20回)

湘南日独協会会員には割引特典があります

また、今回初めて受講される方に限り、

受講料の日割り計算が適用されます

[申込・お問い合わせ先]

松野: TEL&FAX 0467-32-7300

e-mail: matsunoy@kamakuranet.ne.jp

私とドイツ (7)

「50年前の渡航事情と当時のミュンヘン」

会員 仙石 芙蓉



私とドイツとの関連について、何か書いてほしいといわれ、50年前の記録と記憶を手繰り寄せて、文章を書いてみました。

昭和35年3月、中央大学文学部独文専攻を卒業しました。

当時は、東京オリンピックへむ

(仙石芙蓉氏)

けて空前のホテル建設ラッシュで、財界の大御所、藤山愛一郎氏の企画で赤坂に、でんと構えた大きなホテルが建ちました。私はその年の4月、ホテルのオープンと同時に、そこへ入社しました。今では影も形もない「ホテルニュージャパン」です。

その後も、卒論で連絡を取りあっていたミュンヘンの国際児童図書館との交流を続けておりましたので、秋には、実習生としてのお誘いがきました。しかし、渡航費は自分で工面しなければなりません。

空路も海路も、今とは比べものにならないほど高額で、就職5か月目の私には、そんな蓄えはありませんでした。

折しも、中東の石油ブームが起こり、日本のタンカーも頻繁にアラビア方面に行き来していました。当時の丸善石油「文化事業団」では、その事業の一環として、タンカー「つばめ丸」で学術員を無料で海外へ送っていました。私はその船にペルシャ湾の奥クエートまで同乗させてもらいました。タンカーも船長室の隣に客室が1部屋あり優雅な船旅でした。最近ニュースになっているホルムズ海峡も、当時は至って平和でした。そこからは、BOAC機によりダマスカス経由でローマへ、スイス航空で目的地のミュンヘンへとまいりました。こうしてドイツの地を踏んだのは1960年の秋、鉄のカーテンという認識はありましたが、分厚いベルリンの壁はまだ無く、情勢は混沌としておりました。東西ベルリンの壁ができたのは、その翌年の8月のことでした。

私の目的地ミュンヘンは、未だ戦争の傷跡が生々しく、廃墟となった建物が、市の中心部のあちこちに見られました。同じ頃、日本では戦争で壊れたままの建物は、原爆ドームなど意図的に残されるもの別として、もう無かったと思います。ミュンヘン郊外には、1934年にヒットラーが住宅博覧会を開催した際に建てられた100戸のモデルハウスがあり、会期終了後、一般に分譲されました。ミュンヘン南東部の外れで、ザルツブルクへのアウトバーンの起点となっていて、第二世界大戦後は、アメリカの駐留軍により接収され、住民は家財道具を置いたまま、身の回りのものだけをトランクに詰めて出ていかねばなりません。その後、接収は解除になり自宅に戻ったヘレーネさん宅に、私は5年余り住み、まるで娘のように接してくれました。彼女は近くの薬局のオーナーで薬剤師。若い頃は市内あちこちの薬局で店員として働いておりましたが、何度かヒットラーの処方箋を扱ったという。戦後ヒットラーの悪行が話題になるたびに、「あの時、使いの人に処方箋どおりの調剤をせずに毒を盛ってあれば、その後、何十万、何百万かの人達の運命を変えることができたのに」と言っていました。所

詮は素朴で善良な小市民、そのような大それたことができる人ではありませんでした。私は、この中年の独身女性とともに、まだ今ほどは、豊ではなかったドイツの戦後を体験したばかりでなく、彼女の暮らしぶりや口ぶりから、戦時下のドイツをも計り知ることができました。

最近では日本でも秋には、オクトーバフェストが盛んですが、ミュンヘンでは私も、あの陽気な雰囲気が好きで、アルコールには弱いのですが毎年2週間の期間中、何回も行っていました。普段は広大な原っぱであるTheresienwieseに設営されたピヤホールの巨大なテント内で、民族音楽のバンドを聴いたり、大人向けの「にわか遊園地」で色々な遊具に乗っている人々を眺めているだけでも楽しいものでした。

勿論、陽気な家主のヘレーネおばさんとも行きました。



(クエートで上陸現地人の家庭を訪問)

SWZ！ドイツ民謡を楽しみませんか

会員 林 邦之

“Singen Wir Zusammen”に参加しました。ドイツ民謡を共に歌って楽しむ会で、誰でも知っている曲もあれば、あまり知られていないものもありますが、事前に配布された歌詞を見ながらCD演奏を聴き、そして、という楽しい企画です。

ドイツは民謡の宝庫です。独自の民謡を確りと歌い継がれてきました。数多くのドイツ民謡集が発行されており、目下入手可能なものとしては、レクラム文庫のドイツ民謡集には約170曲が収録されており、ドイツ民謡では人生のあらゆる場面が歌われます。日常生活を歌い、故郷や旅、季節の歌、恋と失恋を歌い、仕事の歌から学生歌に至るまで興味は尽きることがありません。この機会にドイツ民謡に接し、かの国の持つ魅力を実感しようではありませんか。

編集後記

2013年は湘南日独協会設立15周年に当たります。地元根づいた協会としての活動を一層展開したいと思えます。(大久保)

★★ 湘南日独協会のホームページ ★★
http://jdg-shonan.ciao.jp/